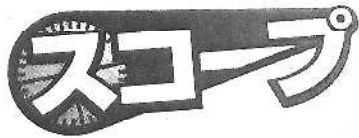


# 首相 09年度予算審議中なのに

麻生太郎首相の周辺で、追加の経済対策を盛り込んだ2009年度補正予算案を、今国会中に編成する案が浮上した。与党で出ている09年度当初予算成立直後の「4月解散説」が既定路線となるのを防ぎ、首相が衆院解散・総選挙のフリーハンドを得る狙いがある。(佐藤圭)



## 「解散」主導権へ また補正

山口俊一首相補佐官は先月末の講演で「首相は『新たに補正予算を組みたい』と話している」と述べ、首相が当初予算成立後、補正予算案の編成を検討していることを明らかにした。

首相は二日夜、記者団に「(当初予算案を) 欠陥商品だと言っているようなものだ」とこれを否定した。しかし、別の首相周辺も「補正を検討しているのは事実だ」と言い切る。

当初予算案に続き、通常国会中に補正予算案を編成すれば異例な対応となる。しかも、当初予算案の審議は始まったばかり。二日の

衆院予算委理事会では野党が「当初予算成立前に補正の話はあり得ない」と抗議した。

当初予算案の早期成立が危うくなるのを懸念する与党からも「不謹慎な発言だ」と批判が続出した。

山口氏が与野党の反発覚悟で補正を持ち出したのは、首相が解散時期の選択で主導権を握るためだ。

首相は一月四日の年頭会見で、当初予算案衆院予算委理事会では野党が「当初予算成立前に補正の話はあり得ない」と抗議した。

当初予算案の早期成立が危うくなるのを懸念する与党からも「不謹慎な発言だ」と批判

首相サイドとしては、与野党から四月解散を決め打ちされる

と、経済の先行きが見えない中で信を問うことにもなりかねない。

そこで補正予算案を準備しておけば、景気の動向や野党の出方を見て、成立を目指すのか、あるいは補正を争点に解散に打って出る選択もできる、というわけだ。

首相に近い自民党議員は「山口氏が発言するタイミングは早かったが、補正が必要だ」ということはみんな分かっている」と語る。

### 「4月説」打ち消し躍起